



▶「花冷えの城の石崖手で叩く」文化センター南側に建つ句碑には、昭和28年に帰郷したときの句が刻まれている。ここには、かつて三鬼の通った学校が、そして亡き父が郡視学を務めていた役所があった。思い出深い地に立って、この句を詠んだ三鬼の心には何が去来したのだろうか。

俳句再開

中年や遠くみのれる夜の桃 (昭和21年)
 おそろべき君らの乳房夏来る (昭和21年)
 大寒や転びて諸手つく悲しき (昭和22年)

終戦後、三鬼は再び俳句活動を開始します。40代半ばとなった三鬼のテーマの1つとなったのが「中年感情」でした。昭和22年には、現代俳句協会を設立。翌年、山口誓子を擁護して俳誌「天狼」創刊にあたるなど、活動の場を広げます。

俳句再開当時は、写実的な俳句が見られていましたが、後年は本来の自由な発想による象徴性の高い句を残しています。

暗く暑く大群集と花火待つ (昭和27年)

冬に生ればつた遅すぎる早すぎる (昭和34年)

秋の暮大魚の骨を海が引く (昭和35年)

三鬼と津山

父のごとき夏雲立てり津山なり (昭和28年)
 昭和28年津山に帰郷したときには「花冷え」の句のほかにも、このような句も残しています。第1句集『旗』の自伝には「私に流れた父の血が今日、私に俳句を作らせてゐる」と書いています。

伝統俳句と深いかわりを持たないまま、いきなり新興俳句の流れの中に飛び込み、たちまちその旗手となった三鬼。伝統的な俳句の世界からはみ出した型破りの俳人であったと同時に、不思議な魅力を持った俳人でした。

春を病み松の根つ子も見あきたり (昭和37年)

この句を絶筆として、昭和37年4月1日三鬼は永眠しました。4月1日は、現在でも「西東忌」「三鬼忌」として歳時記に載っています。

俳句生活20年余りという短い時間の中で、昭和の俳句界を彗星のごとく横切った三鬼。津山が生んだ津山の誇りです。

西東三鬼に魅せられて



白石不舍さん (小田中)

三鬼門下で、現在「網俳句会」主宰。三鬼没後、成道寺にある三鬼の墓や西東三鬼賞の設立・運営にかかわってきた白石さんにお話をうかがいました。

◆「人たらし」の三鬼との縁

西東三鬼に出会ったのは、昭和23年。三鬼が30年ぶりに津山に帰郷したときのことです。

三鬼は33歳で俳句を始めて、その約2年後にはあの有名な「水枕」の句を作っています。天才、新興俳句の旗手と呼ばれ活躍した三鬼は、昭和22年には「現代俳句協会」を設立。その三鬼が津山に30年ぶりに帰ってくるというので、当時、市の教育課にいた私も、三鬼の講演会や俳句会の開催に携わりました。私は趣味で俳句をして



▲成道寺(西寺町)の三鬼の墓。「水枕がばりと寒い海がある」の墓句は山口誓子筆

◆西東三鬼賞を日本一の賞に

西東三鬼賞は、三鬼の没後30年に創設されました。私は「三鬼は日本一の俳人」と思っています。だから西東三鬼賞も日本一の賞でなければ。賞金50万円というのは全国でも高額なものですし、選者の先生方についても日本の俳句界

いたのですが、三鬼が津山で初めて開催したこの俳句会で私の句が特選1席に選ばれました。これが三鬼と私の縁の始まりです。「女たらし」という言葉がありますが、三鬼はいい意味で「人たらし」といえるかもしれません。ハイカラでダンディー。男も女も関係なく出会った人は三鬼にほれて、何だか知らないけれど世話をしよう、そんな魅力ある人でした。三鬼の俳句のすごさは、当時の人々が予想できないような斬新な発想で俳句をとらえたところでしょう。色彩鮮やかで、今までにない迫力のある句を次々に生んでいました。

を代表する著名な方々です。平成11年に西東三鬼賞を受賞した高橋修宏さん(富山市)は、平成17年に現代俳句新人賞(現代俳句協会主催)を受賞し、今や現代俳句の売れっ子となっています。このような人が三鬼賞の中から出てきてくれることは本当にうれしいことです。応募作品は年々質も高くなってきていますが、地元からの句も期待しております。

第14回西東三鬼賞 作品募集

津山の生んだ俳人西東三鬼の業績を顕彰するとともに、三鬼俳句の精神を継ぐ新しい感覚の俳句文芸の振興をめざして広く作品を募集します。

応募要領 雑詠3句1組(未発表作品に限る)①原稿用紙に黒インクまたは黒ボールペンを使用②ワープロ原稿③住所、名前(ふりがな)、俳号(ふりがな)、年齢、職業(学校名・学年)、電話番号を記入して応募

投句料 1組1,000円(現金または定額小為替) ※何組でも応募可能

選考委員 和田悟朗、宗田安正、寺井谷子
賞 西東三鬼賞=賞状と副賞50万円(1人)、秀逸=賞状と副賞2万円(10人)、佳作=賞状と記念品(30人)

締め切り 11月30日(木)当日消印有効
発表 平成19年3月

※応募者全員に入選作品集を送付

応募・問い合わせ先 〒708-8501 津山市山北520 津山市文化課内 西東三鬼賞委員会 (市役所東庁舎2階) ☎32-2121



三鬼愛用のパイプ



西東三鬼略年譜 ()は満年齢

明治33年 5月15日、現在の南新座84番地に生まれる。父敬止、母登勢の4男。本名齋藤敬直

明治39年(6歳) 父、死去。母と二人暮らしの生活始まる

大正7年(18歳) 母、風邪がもとで死去。東京の長兄に引き取られる

大正14年(25歳) 日本歯科医専卒業。結婚

昭和8年(33歳) 勤務先の患者らに勧められ俳句とかかわりを持つ

昭和10年(35歳) 「京大俳句」に加入

昭和15年(40歳) 第1句集『旗』刊。「京大俳句」事件が起こる。特別高等警察により治安維持法違反で検挙される。起訴猶予となったが、以後作句を中断

昭和20年(45歳) 戦争終結とともに作句活動を再開

昭和22年(47歳) 石田波郷、神田秀夫らとともに現代俳句協会を設立

昭和23年(48歳) 山口誓子を擁護して「天狼」を創刊、同人として編集にあたる。第2句集『夜の桃』刊

昭和26年(51歳) 第3句集『今日』刊

昭和27年(52歳) 俳誌「断崖」を創刊

昭和31年(56歳) 角川書店「俳句」編集長になる

昭和36年(61歳) 俳人協会設立に参加

昭和37年(62歳) 第4句集『変身』刊。4月1日61歳で逝去